

熊本県支部

九州新幹線全線開通に伴う熊本都市圏の観光活性化に関する調査研究

1. 熊本の観光の現状

平成 19 年に熊本市を訪れた観光客数は 4,670 千人で、前年対比 108.8%と大幅な伸びを示している。このうち、宿泊客数は 1,952 千人、前年対比 105.9%と伸びているが、滞留率は前年より 1.1 ポイント減少している。

2. 観光関係機関の取り組み

(1) 熊本県の取り組み

“観光立県くまもとづくり”の旗印の下、「新熊本観光アクションプラン」「“ようこそ”くまもと観光立県県民会議」「くまもと観光立県推進条例」の3つのことに重点的に取り組んでいる。また、関西、中国地方をターゲットとする「KANSAI 戦略」を展開している。

(2) 熊本市の取り組み

熊本市の場合、企画課に新幹線プロジェクトが編成されており、プロジェクトで、統一的活動が進められている。熊本城の本丸御殿を中心に引き続きPRする。築城 400 年祭は平成 20 年 5 月で終了したが、訪問者はその後も多い。引き続き関西以西、中国地方を中心に継続的なPRを行う。

(3) 熊本国際観光コンベンション協会の取り組み

熊本国際観光コンベンション協会の活動で県外や海外における部分は、熊本県民にはあまり知られていない。3 年前から本格的に実施している首都圏と関西圏の旅行エージェントの招聘等の効果が今後期待される。

(4) 熊本商工会議所の取り組み

平成 20 年度は「九州新幹線全線開通に向けた情報発信戦略について“くまもと水の道”KANSAI プロモーション戦略」を展開する。

3. 九州新幹線の全線開業が熊本都市圏に与える影響

我々の日常生活行動時間を 5 時間とする論からすると、新幹線開通後の生活行動圏は山口・岡山はもとより大阪関西圏域まで一気に拡大することになる。さらに、本社機能を含めた企業立地や行政中枢機関の設置の選択肢も拡大するとともに、居住地や職場の選択肢も大きく広がる。

4. 熊本都市圏観光活性化に向けた提言

(1) 観光資源に関する提言

①既存施設の見直し活性化、②食事買い物、③女性ファッション、④祭りイベント

(2) 官民（官官や民民を含む）の連携に関する提言

(3) 観光客の集客に関する提言